

平成20年度「基礎・基本」定着度調査の結果について

県教育委員会では、県内小・中学生の基礎学力（社会生活を営む上で最低限必要な知識や技能等）がどの程度定着しているかを調べるために、毎年、小学校5年生、中学校1・2年生を対象に「基礎・基本」定着度調査を実施しています。

市教育委員会では、市内の児童生徒の学力状況を知っていただくために、この調査の結果を市民の皆さんにお知らせします。なお、市教育委員会では、今後とも、各学校とともに学力向上に一層努めていきたいと考えています。

●「基礎・基本」定着度調査のねらい

県内すべての小・中学校が調査結果を基に自校の課題を明確にし、個に応じたきめ細やかな指導方法の改善・充実を図るために実施するものです。

●「基礎・基本」定着度調査の結果（平成21年1月実施）

◆各学年の教科別の正答率（%）※正答率＝正答数÷問題数×100

学年	教科	教科				
		国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	鹿屋市	77.5	74.5	74.1	74.7	
	肝属地区	76.8	73.8	73.3	74.1	
	県全体	76.8	72.0	73.9	73.7	
中1	鹿屋市	62.6	66.2	63.6	64.3	73.4
	肝属地区	62.3	65.6	64.1	63.9	72.2
	県全体	63.7	65.6	68.0	67.3	72.5
中2	鹿屋市	66.7	60.5	64.0	62.0	58.8
	肝属地区	66.2	60.6	64.0	62.1	59.9
	県全体	66.1	62.6	65.7	62.6	60.0

- ◇小学校の正答率は、すべての教科で県平均をこえており、中学校の正答率は県平均とほぼ同じです。
- 小学校5年生では、7割以上の正答率を示し、概ね基礎的・基本的な内容が定着しているようです。
- 中学校1・2年生では、6～7割程度の正答率を示し、今後、十分な定着が図られるよう指導法の改善等、さらに努力する必要があります。

◆各教科で特にのばすべき学力等

教科	各教科で特にのばすべき学力等
国語	○文学的文章に偏らず様々な種類の文章を目的に応じて読み取る力 ○読み取りをもとに、自分の考えを適切に表現する力 ○文法、漢字などの言語に関する知識・技能
社会	○地理的分野の基礎的・基本的な内容についての知識と理解 ○必要な情報を図、写真、グラフなどから効果的に取り出し解釈する力 ○複数の資料を比較・検討した結果をもとに、根拠を明らかにして自分の考えを記述する力
算数・数学	○計算の決まりを正確に理解し、四則混合計算を確実に計算する力 ○面積公式を具体的な場面に適用する力 ○文字式の意味を表現する力 ○空間図形の認識力、題意を正確にとらえ、道筋を立てて考える力
理科	○理科の用語等に関する正しい知識 ○観察・実験の基礎的な技能 ○グラフ、表、図等から必要な情報を読み取り、問題解決に向けて活用する力 ○実験結果から推論したり、根拠となる事柄から結論を導き出したりする思考力
英語	○英語の文法等に関する基礎的な知識及び活用する力 ○自分の気持ちや考えを話したり書いたりする表現力 ○比較的長い英文を読んで、その概要をつかむことができる力

◇学力の定着を図るため、重点的な指導など様々な工夫が必要であり、各学校で具体的な手だてを講じていきます。

●「基礎・基本」定着度調査結果に対する手だて

- 昨年度の取組 1月の調査実施後、各学校では誤答傾向等について分析し、定着が不十分な事項については、補充指導や個別指導を行い、指導内容等を検討しました。
- 今年度の学力向上の取組 各学校は、定着が不十分であった事項について、指導方法の改善や個に応じた指導等一人でひとりの学力の向上を図ります。
- 家庭での学習習慣 家庭学習は、学校で学んだことを定着させるために大切です。家庭学習の充実に向けて、「かのや宅習1・2・3運動」等、学校と家庭・地域が一体となって取り組めるよう今後も働きかけを行っていきます。

【問い合わせ】市学校教育課（6階） ☎ 0994-31-1137